

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2770106785
法人名	アミコ株式会社
事業所名	いこいの守・塚
所在地	堺市中区深井北町3500番地 (電話) 072-276-3833

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】(平成 21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 6 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 19.75 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	25,200 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(280,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1575 円		

(4) 利用者の概要(1 月 1 日現在)

利用者人数	26 名	7 名	女性 19 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)慈心会 あびこ病院 (医)いぶき会 坂口クリニック 長尾歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

堺市の泉北一号線の幹線道に面した所に位置しており、コンクリートの打ちっぴなしの外観はおしゃれな4階建てのマンションのようです。2階から4階が各ユニットになっており、3階には広々としたテラスもあり季節の花が植えられたプランターが置かれていて、見晴らしのすばらしい気持ちの良い空間となっています。各ユニット毎にリビングのテーブルやソファの配置を工夫されていて、利用者はそれぞれの居場所で穏やかに寛がれています。職員は笑顔で語りかけ、より添うケアを心がけ、時には買い物の途中に近くにあるペットショップへかわいい動物を見に行ったりと楽しく過ごされています。医療連携体制もとられていて安心した日々を過ごされています。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題については職員間で話し合い、個人ファイルの保管場所の変更や家族会の発足等、出来る事から取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者、計画担当責任者が中心となり作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、地域包括センター職員、知見者として近隣のグループホームの管理者等が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回実施されています。会議ではホームでの行事報告の他、地域包括センターの職員から情報を得たり、他グループホームの参加者からは取り組みの工夫を聞くことでサービスの向上につなげています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に重要事項説明書に添って苦情相談の方法を説明し、ホームに来られた際には出来るだけ話す機会を持ち、意見を聞くように心がけています。家族会を定期的に実施しており、直接意見をもらったり、家族同士で話はずみ不安や悩み等の解消につながっています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の川沿いにある桜並木を散歩したりペットショップへ動物を見に行ったりした際に、近隣の住人との交流がある。地域の中で認知症高齢者を支えていく活動として、中区の認知症安心ネットワークに参加し相談、意見交換して情報を得ています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく安心して暮らしていけるように、母体法人である株式会社アミコの「笑顔・信愛・憩い」という理念が掲げられている。	○	住み慣れた地域で暮していくことや、地域密着型サービスのホームとして、グループホームいこいの守・塚の理念を職員で話し合い作り上げられることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関、各ユニットの目に付くところに掲示している。理念を念頭におき、問題等に突き当たった時「親(自分)だったら、どう思うか」と問いかけしながら、笑顔で過ごしてもらえよう日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の川沿いにある桜並木を散歩したり、ペットショップへ動物を見に行ったりした際に、近隣の住人との交流はあるが、地域の行事はあまり活発ではなく参加していない。地域の中で認知症高齢者を支えていく活動として、中区の認知症安心ネットワークに参加し、相談や意見交換して情報を得ている。地域にホームのことを知ってもらったり、地域の行事に利用者が参加できるように繋げていきたいと考えている。	○	今後は、地域の行事や中区の活動に利用者が参加していくことで、地域との交流を深めていかれることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題については職員間で話し合い、個人ファイルの保管場所の変更や家族会の発足等、出来る事から取り組まれている。今回の自己評価については管理者、計画担当責任者が中心となり作成されている。評価の意義を職員に伝えているが、全職員での自己評価への取り組みはなされていない。	○	自己評価の項目によりケアを振り返る機会になり、自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取組まれることが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域包括センター職員、知見者として近隣のグループホームの管理者等が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回実施されている。会議ではホームでの行事報告の他、地域包括センターの職員から情報を得たり、他グループホームの参加者からは取り組みの工夫を聞くことでサービスの向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは随時報告に行ったり、連絡、相談を行い連携している。中区の認知症安心ネットワークに参加し、情報交換の場になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームに来られた際や電話にて日頃の暮らしぶり等の報告をしている。また、家族の安心につながるように毎月、個別に健康面、日常生活を書面で、連絡事項等は3ユニット共通のグループホーム便りを送付している。金銭管理はホームの立替制で行い定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書に添って苦情相談の方法を説明し、ホームに来られた際には出来るだけ話す機会を持ち、意見を聞くように心がけている。家族会を定期的実施しており直接意見をもらったり、家族同士で話がはずみ不安や悩み等の解消につながっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が最小限になるように努め、馴染みの関係でのケアを大切にしている。管理者は職員一人ひとりに声掛けを行い話し合う機会を設けたり、職員アンケートを行い、職員の思いを聞き、勤務シフトを考慮するなど離職を防ぐようにしている。職員の交代の際には、馴染みの職員が関わりを多く持つようし、利用者にはダメージのないよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット全体での勉強会や認知症、感染症等の外部研修に積極的に参加している。研修参加後はホーム会議等で伝達研修を行っている。入職後1ヶ月間は、マンツーマンで指導を行ない、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中区グループホームの会、堺市グループホームの会に参加し、勉強会や情報交換をし交流を図っている。また、運営推進会議を通じて他のグループホームとの交流もあり、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族と一緒に見学してもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。入居後はすこしでも早く馴染んでもらえるように長年愛用している家具や小物を持ってきてもらっている。また、家族にも情報提供や電話等で協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ズボンのすそ上げや靴下に漢字でネームを刺繍するなど利用者の得意分野や出来る事をしてもらったり、野菜の切り方やお米のとぎ方、洗濯物のたたみ方など教わりながら、支えあう関係を築き、一緒に過ごしながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思いを聞くようにしており、家族にも相談して得た情報を各フロアー会議やケース会議で出し合い、利用者の想いを感じとり検討している。また、各フロアーには気づきノートを用意して書き込みをするようにして希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式をアセスメントとし、利用者の思いや状況を把握すると共に、週一回往診の医師や家族等から意見を聞き、ケース会議にて職員間で話し合い、一人ひとりに添った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月周期で見直し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し変化があれば見直している。状態に変化があった場合についてはその都度随時見直しをして変更している。	○	介護計画に添ったケアを行なっていることを意識し、状況の変化を速やかに把握できる為にも、日々の介護記録と連動をもたせる工夫をされてはいいかがでしょうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人であるので、体調悪化時には優先的に診療を受けることが出来る。家族の状況に合わせて通院介助をしたり、個別での買い物等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続するかどうかを希望に合わせて取り決めている。提携のクリニックや歯科の往診があり、医療連携体制のもと少なくとも週一回の看護師の訪問もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で重度化した場合についての指針を説明し、同意を得ている。ホームで出来る事について病院と連携して、家族と医師、看護師、職員間で話し合い情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本は丁寧な対応で、一人ひとりを見てその方に合った対応、言葉掛けを行っている。言葉の乱れた時には、その都度管理職が注意している。個人情報につながる書類等については事務所内に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを守るケアを心掛けており、朝食の時間、食事の場所なども希望にそって支援している。1日の過ごし方をその都度聞きくようにし、利用者自身が決めることができるよう支援しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚を焼く、おやつを作るなどの調理や配膳、下膳、後片付けなど出来る事を一緒に行っている。職員は利用者と一緒に同じ食事を食べながら支援している。また誕生日には外食をし好みの食事をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の健康状態を考慮して毎日の入浴、夕食後の入浴も支援している。一人ひとりの希望に添いながら、入浴拒否される方には声掛けやタイミングを見計らい対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯物干し、たたみ等これまでの生活の継続としての家事や趣味のカラオケ、習字、など利用者が力を発揮できる場面づくりを支援している。かるたやランプ、ぬり絵をしたり、気晴らしに外出をしたり楽しみ事も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に合わせて近隣への散歩や職員が車で出かける時などミニドライブをしたり、おやつの買い物に行ったり出来るだけ外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、ホームの前が幹線道路であるので、安全上家族に説明し、テンキーロックをしている。利用者が外に出たい場合については一緒に出掛けるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下で年に1回避難訓練を行っているが、地域の消防団等の活動の情報も少なく、地域の方々の協力が得られるような働きかけが充分でない。	○	今後は災害時に地域の方々の協力体制を作っていけるよう、自治会や消防団等に働きかけ、訓練の見学、参加を依頼してみたいかでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食は業者の栄養士が立てたメニューで、栄養バランスの考えられた食事を提供し、食事摂取量、水分摂取量を記録し、一人ひとりの把握をしている。食事、水分摂取量が少ない時は状態観察に努めている。体調や嚥下機能の状態に合わせて、粥や刻み食、ミキサー食等の対応も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアはテーブル、ソファの位置を定期的に変え、居心地良く過ごせるように工夫をしている。季節に応じた作品、お雛様の貼り絵が各フロアに飾られており、利用者はカウンターキッチンからの調理をする心地よい匂いもあり、ゆったりとくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはなるべく馴染みの物を持ってきてもらうように話をしている。お花や使い慣れたテレビやイスを置き、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせる空間となっている。		